

【連載12】
教えて！ 救急の人

講義11

子供のケガ対策は？(2)

スキーヤーの皆さんに起きやすいケガや病気への疑問・質問に北海道のお医者さん、歯医者さん、救急隊員さんがお答えします。



答える人
今野 祐樹
(この ひろき)

北海道 富良野広域連合
富良野消防署
南富良野支署

1973年生まれ、北海道出身。救急救命士、南富良野スキースポーツ少年団事務局長。アルペンスキーヤーである小学生の息子のサービスマンとして仕事以外はゲレンデに足を運び、毎日のワクシングとチューンナップに情熱を注ぐ。エッジ研磨に絶対の自信あり！

Q

子供が転んでケガをしてしまった。

今回は子供のケガについて、頭や手、脚など身体の部位ごとに、用具選びの注意点も含めてお話ししました。今回は、体幹部のケガと子供の骨の特徴による骨折時の注意点について解説していきたいと思います。

○体幹部のケガ

転倒して外れたスキーのバインディングでお腹を打ったというような事例を聞いたこともあります。ここで重要視したいのは背中へのケガです。首から腰にかけて、背骨を走る背骨のなかには脊髄という重要な神経があります。もしも脊髄に重大な損傷が及べば、寝たきり生活や車椅子生活を余儀なくされる場合があります。

【プロテクター】

スキーでの転倒は避けられないものですが、背骨を保護するプロテクターを着けていれば、大きなケガにつながる危険性を減らすことはできると思います。将来のある子供のケガを未然に防ぐためにも、プロテクターを装着することを強くお勧めします(写真1)。

○骨折

骨折の疑いがある場合、骨折の処置については大人ときほど変わりはありません。すみやかに固定と冷却をし、医療機関に助けを求めることが大切です。この点については連載第10回で石田英俊講師が解説しているので、それを参考にしてください(SJ7)。ここでは保護者が知っておきたい、子供の骨の特徴や骨折が疑われる場合の注意点について述べたいと思います。

【子供の骨の特徴】

スキー中の転倒による骨折というのは、大人、子供を問わず多く見られますが、子供の骨は成長過程にあるため大人に比べて治りが早いという特徴があります。しかし、成長に関係する部分である骨端線に損傷を受けると成長障害になり、骨が伸びなくなったり、曲がったりする可能性が出てきます。これが、子供の骨折の恐ろしいところです。

また、骨に柔軟性があるため骨折しづらく、骨折しても成人とは違い、若木(わかぎ)骨折といった形を取ることが多くあります。

水分を多く含んだ若木は折ろうとしてもグニョッと曲がり、乾燥した枝のようにポッキリ折れることはありません。子供の骨にも同じようなことが起きるのです。ほかにも大人と比べると腫れや内出血がわかりにくい場合があるので、見落とさないように注意しましょう(写真2)。

○最後に

子供は上達するスピードが速く、あっという間にゲレンデを滑れるようになります。もちろん初心者のケガも多いのですが、慣れた頃にもケガは多くあります。また、長時間滑っていて疲れてくる時間帯にもケガは多くなります。

せっかくの楽しいスキーも、ケガをしてしまったのではなんにもなりません……。保護者の皆さんがスキー中のケガや用具選びに対する正しい知識を少しでも持っていれば、起こるべくして起こるケガは防ぐことができるかもしれません。今一度、子供のケガの特徴や防止法、用具選びについて考えてみてください。

骨折が疑われる場合は、
すぐに医療機関を受診しましょう！



写真1

背中や背骨を保護するためのプロテクターは、ぜひ子供には装着させたいものです

写真2

水分を多く含んだ若木はポッキリ折れることはありません。これと同様のことが子供が骨折したときに起きます

